

池田高校 SSH 卒業生アンケート
高校29期生 Lさん

(聞き手 副校長山崎)

1 高校時代の研究テーマはどのようにして決めたか。

高校2年の時、先生と面談しながら、方向性を決めた。

小中の頃は、海洋生物学者になりたかったが、高校で理工学的なことに興味をもった。

海洋と工学という接点から、ROV という水中探査機の開発を発案できた。指導者との面談から引き出してもらえて、また研究開発は自由にさせてもらった。

チームで全てインターネットを駆使して、海外の会社からパーツを取り寄せ、独学で開発した。自分たちの水中探査機が深海 200m を超えたときは、最も感動した。

2 なぜ池田高校への進学を決めたのか。

池田学園の国際科学大会グローバルサイエンティストアワードに参加して、そのレベルと先生方の熱心さや親しみやすさから、SSH 校であるここにしようと思った。

3 SSH 校としての池田高校は、今の自分にとってどんな意味があるか。

普通の学校は、例えば理科なら、地学・物理・科学・生物がちがうものだとして、教えられ違うテストをする。ただ、SSH 活動は実践的なので、研究によっては、全ての領域で数学の同じ定理が通用したり、さらに違う領域で同じ手法や知見が通用する、ような経験ができる。学問は領域であるが、しかし本当は複合的・統合的なものだと分かった。

また、多様な学者や研究者の話聞くことは、複合的な考え方を育成すると思う。

もし、池田高校でなければ、淡々と学校と家の行きかえりで、結果として、やる気の引き出せない高校生活・大学生活を送っていると思う。今は、プレゼンの授業や協働作業も率先してできるのは、池田学園のおかげだと思う。スライド作成や表現方法は、池田でしか学べなかった。

4 高校で、一言でいうと何を学んだと思うか。

あきらめずに失敗を続けることを、そして少しの成果を積み上げていくことで、最後はとても大きなところに行きつくということが分かった。

5 池田高校に求めること

まず、生徒たちのために SSH を継続し続けてほしい。

その上で、生徒の意見を聞いて、生徒のテーマ設定を重視してくれる先生がたくさんいる。主体性を重視する SSH をさらに進めてほしい。

自分でゼロから考えて、テーマを考えて、検証し、失敗し、さらに成果を積み重ねることができたのは、自分のテーマを尊重する環境があったから。池田学園があって、今の自分もいる。そういう池田高校 SSH であり続けてほしい。